

2014年11月5日(水)  
信濃毎日新聞(夕刊)



演奏を指揮する井上道義＝神奈川県の鎌倉芸術館(©星ひかる)

## エンタメ ノート

指揮者・井上道義 大病からの復帰公演

咽喉がんの治療のため4  
月中旬から休養していた指  
揮者の井上道義が、演奏活

動を再開した。NHK交響  
楽団と臨んだ10月11日、神  
奈川・鎌倉芸術館での復帰

つていた演目だが、井上  
は「人生は有限だと教え  
てくれる名曲。復帰公演  
での演奏に、

### 「人生は有限」演奏荘厳に

運命的なも  
のを感じた」

公演では、ブルックナーの  
「交響曲第9番」など3曲  
を指揮。大病からの復活を  
印象つけた。

という。  
演奏会で、井上は力強く、  
丁寧にオーケストラを導い  
た。いきり立つような荒々  
しいリズムも、深く染み入  
るようなメロディーも、乱  
れることはない。荘厳なハ  
ーモニーが聴衆を曲の世界  
に引き込んでいく。演奏時  
間は1時間を超え、井上が  
余韻を慈しむように指揮を  
終えた。

前半は、ショーンソンの  
「バイオリンと管弦楽のた  
めの詩曲」とマスネの「タ  
イスの瞑想曲」。ソリスト  
を務めたバイオリンスト  
の前橋汀子は圧倒的な存在  
感で、情感豊かに甘美な  
メロディーを紡いでいく。  
オーケストラは凜とした  
バイオリンの音色を引き  
立て、しつとりと寄り添っ  
た。

後半の交響曲第9番は、  
作曲家が書き終えること  
なく死を迎えた「未完」  
の作品。休養前から決ま  
り、

後半の交響曲第9番は、  
作曲家が書き終えること  
なく死を迎えた「未完」  
の作品。休養前から決ま  
り、

拍手に誘われてステージに  
現れた井上は、前橋やオ  
ーケストラ、そして闘病を  
支えてくれた人たちに感謝  
の言葉を述べ、深く頭を下  
げた。忘れられない演奏会  
になった。